若菜集　抄

島崎藤村

目次

初恋 …… 4
狐のわざ …… 6
秋に隠れて …… 7
雲のゆくへ …… 8
あとがき …… 9

初恋

まだあげ初(そ)めし前髪(まへがみ)の
林檎(りんご)のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛(はなぐし)の
花ある君と思ひけり

やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅(うすくれなゐ)の秋の実(み)に
人こひ初(そ)めしはじめなり

わがこゝろなきためいきの
その髪の毛にかゝるとき
たのしき恋の盃(さかづき)を
君が情(なさけ)に酌(く)みしかな

林檎畑の樹(こ)の下に
おのづからなる細道(ほそみち)は
誰(た)が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ

狐のわざ

庭にかくるゝ小狐の
人なきときに夜(よる)いでて
秋の葡萄の樹の影に
しのびてぬすむつゆのふさ

恋は狐にあらねども
君は葡萄にあらねども
人しれずこそ忍びいで
君をぬすめる吾(わが)心

秋に隠れて

わが手に植ゑし白菊の
おのづからなる時くれば
一もと花の暮陰（ゆふぐれ）に
秋に隠（かく）れて窓にさくなり

雲のゆくへ

庭にたちいでたゞひとり
秋海棠(しゅうかいどう)の花を分け
空ながむれば行く雲の
更(さら)に秘密を聞(ひら)くかな

あとがき

この本は、一枚の本の「デジタル製本」の見本です。

島崎藤村『若菜集』の「秋の思」から、「初恋」「狐のわざ」「秋に隠れて」「雲のゆくへ」の四篇を、詩集の順に載せました。本文とふりがなは、青空文庫によります（底本：『藤村詩集』新潮文庫／入力：佐女高2－1／校正：小林繁雄・門田裕志）。

『若菜集 抄』

2026年11月15日　第一刷発行

著者　島崎藤村

組版：うっかり / デジタル製本：一枚の本

一枚の本「デジタル製本」の見本です。

作品は、著作権の切れた古典です。